

標準施工仕様書

リジットコート

項 目	ページ
1.材料	2
2.取扱い上の注意事項	2
3.材料の混合比	3
4.施工道具	3
5.1 m ² 当たりの使用量と施工面積	4
6.対象下地	4
7.施工フローチャート	4
8.施工方法	6
9.施工環境に関する注意	6
10.施工上の注意事項	7
11.取り扱い上の注意	8

この標準施工仕様書は、リジットコートを施工する際の注意事項と、施工方法について説明したものです。ご使用前に必ずお読みいただき、適切な取り扱い方法で、安全に作業を行なうようにしてください。

本書に記載してある施工方法は、標準的（気温20℃、屋内施工基準）なものであり工程・使用量・工程間隔等は、下地の状態や施工部位・気温などの施工条件や使用条件によって多少変化することがあります。



無機建材事業部

本仕様書は「リジットコート」の標準仕様に関するものです。

1. 材料

【4.12 k g セット】 約 30～77 m²分

リジットコート基剤 梱包 4.0 k g / 缶

リジットコート硬化剤 梱包 0.12 k g / 缶

【16.48 k g セット】 約 123～308 m²分

リジットコート基剤 梱包 16.0 k g / 缶

リジットコート硬化剤 梱包 0.48 k g / 缶

2. 取り扱い上の注意事項

◇火気厳禁

- 使用材料の1つであるリジットコート硬化剤は引火性の液体の材料です。

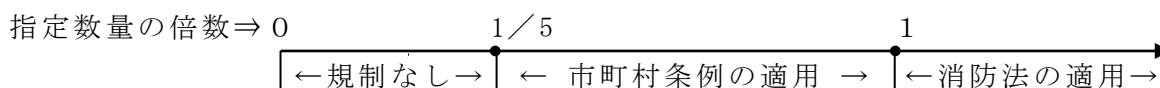
材料保管時や施工時における現場付近での喫煙、溶接作業・焚き火などの火気の使用は避けてください。また、使用時には防爆型の攪拌機や投光機を使用してください。

- 万が一の火災に備えて消火器（粉末、泡などの適切なタイプ）の用意をお奨めします。

◇材料保管

- 直射日光・雨・雪の当たらない屋内、低湿度の環境で保管してください。
- 加熱される場所や火気の周囲には保管せず、40℃以下の温度で保管してください。
- 床面には直置きしないで、パレットの上に保管してください。
- 湿度の高い場所、結露しやすい場所には保管しないでください。
- 子供の手の届かない場所で保管してください。
- リジットコート硬化剤の貯蔵は、消防法における危険物の規制を受けます。

現場に仮貯蔵する場合は、危険物分類による指定数量により、貯蔵または取扱いの基準が異なります。



* 危険物分類と指定数量

製 品 名	危険物分類	指定数量
リジットコート硬化剤	第4類第2石油類（非水溶性）	1000 L

◇その他の注意事項

- 材料がこぼれた場合は、ほうきや集塵機で取り除いてください。
- 残材、材料の付着したウエスなどを廃棄する時は廃棄物処理業者に委託してください。
- 河川や一般のごみ捨て場には廃棄しないでください。
- 本来の用途以外の目的に使用しないでください。

詳細は、安全データシート(SDS)をご参照ください。

3. 材料の混合比

リジットコートの混合比

		リジットコート基剤	リジットコート硬化剤	水道水
1 回目 塗布時	混合比	1 0 0	3	2 0
	4.12 kg 梱包比	4.0 kg	0.12 kg	0.8 kg
	16.48 kg 梱包比	16.0 kg	0.48 kg	3.2 kg
2 回目 塗布時	配合比	1 0 0	3	※水希釈なし
	4.12 kg 梱包比	4.0 kg	0.12 kg	
	16.48 kg 梱包比	16.0 kg	0.48 kg	

※水希釈を行うのは一回目塗布時のみになります。

4. 施工道具

リジットコートの混合、施工に必要な施工道具一覧

施工道具	詳細	参考写真
攪拌機 (ハンドミキサー)	回転数 700～1100min ⁻¹ 程度、羽根径 150mm 程度、羽根形状は上下カギ型ステンレス羽根を使用して下さい。	
グラム秤	小分けして使用する場合は、必ずグラム単位で計量できる秤を使用して、硬化剤を計量してください。	
ワックス用モップ	リジットコートの塗布はワックス用のモップを用いてください。 ※ローラーでの塗布は出来ませんのでご注意ください。 ※均一に塗布するには毛足の短い素材を推奨します。	 シーバイエス社製 スタンダードモップ推奨

※その他施工道具は現場の状況等により準備して下さい。

5. 1 m²当たりの使用量と施工可能面積

使用材料	塗布条件		1 m ² 当たり (kg/m ²)		施工可能面積 (m ²)		
リジットコート	1 回 目	基 剤	0.033～ 0.084	0.04～ 0.10	【4.12kg セット】 30～77	【16.48kg セット】 123～308	
		硬化剤					
		水	0.007～ 0.016				
	2 回 目	基 剤	0.02～0.05				
		硬化剤					

※上記使用量は下地の吸込み条件によって変動します。

6. 対象下地

- ・モノリシック材（カラクリート、フェロコン、フェロコンC、カラーハードEM、フェロコンハード類）
- ・フェロコンハード類塗付け工法
- ・コンブリオ
- ・ヴェレージアTR

※対象下地については、各商材推奨の養生期間を確保していることを確認してください。

※モノリシック材は、保湿養生を行った下地を推奨します。

※機械仕上げなど、極端に吸込みが少ない下地には適していませんので、ご注意ください。（研磨仕上げを施したものは施工可）

※保湿養生を撤去した後、2週間以上の乾燥期間を設け、且つ、表面水分率が8%以下まで低下してから施工を行って下さい。（ケット水分計：ココHI-520タイプで8%以下）

7. 施工フローチャート

工程

	工 程	施 工 概 要	次工程までの間隔 (※)
(1)	下地処理	下地の状態に合わせて各種実施	
(2)	周囲の養生	施工箇所の周囲を養生	
(3)	1 回目塗布	混合したリジットコートを 約 0.04～0.10kg/m ² で塗布する。	1 時間以降 (タックが無いことを 確認してください)
(4)	2 回目塗布	混合したリジットコートを 約 0.02～0.05kg/m ² で塗布する。	最終養生
(5)	養生	軽歩行 : 4 時間以降 重量物走行 : 1 2 時間以降 (低温下では 2 4 時間以降から重量物の走行 が可能です。)	

(※) 雰囲気温度 20℃で通風が良く乾燥しやすい雰囲気において、次の工程までのおおよその間隔を表しています。

8. 施工方法

(1) 下地処理

清掃およびレイタンスの処理を実施してください。

(2) 周囲の養生

① マスキングテープや養生テープで周囲の養生を実施して下さい。

(3) リジットコート塗布 1 回目分の混合

- ① 基剤は事前に十分攪拌してください。底に沈殿している場合があります。
- ② 基剤を攪拌しながら、基剤に硬化剤を投入しハンドミキサーで 1 分間攪拌します。硬化剤の比重が高く底に溜り易いため、缶底を入念に攪拌してください。
- ③ ②に水道水を加えさらに 30 秒程度攪拌します。

※水の希釈量は混合比を厳守してください。

(4) 塗布 1 回目

① ワックス用モップを用いて、均一に塗布してください。

溜りが出来ないように薄く均一に塗布してください。

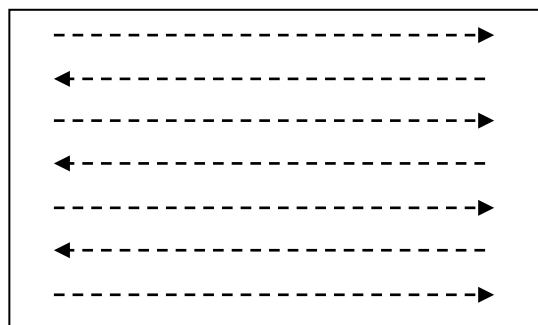
1 回目の標準使用量は約 $0.04 \sim 0.10 \text{ kg/m}^2$ です。

※送風機等を使用して換気対策を実施してください。

※リジットコートの可使時間は 1 時間程度です。1 時間を経過した材料は使用しないで下さい。(気温に関係なく 1 時間以内でご使用ください。)



1 回目塗布例



-----> 1 回目塗布方向

※塗布方向は直線状に一定方向に向かって塗布することで、塗布ムラを低減出来ます。

チリ周りは先行し過ぎて塗ると、艶の差が出てしまいますので、極力塗り継ぎ時間に差が出ないように注意して施工計画を立ててください。

※材料は溜りが生じないように、モップで均一に塗布して下さい。材料はモップに直接付けて塗布するか、噴霧器で撒きながら塗布してください。ジョウロ等で床に材料を撒いて伸ばすと、材料溜りが出来て硬化不良を起こす場合があります。

(5) リジットコート塗布 2 回目分の混合

- ① 基剤は事前に十分攪拌してください。底に沈殿している場合があります。
- ② 基剤を攪拌しながら、基剤に硬化剤を投入しハンドミキサーで 1 分間攪拌します。硬化剤の比重が高く底に溜り易いため、缶底を入念に攪拌してください。

※塗布 2 回目は原液です。水希釈が必要ありませんのでご注意ください。

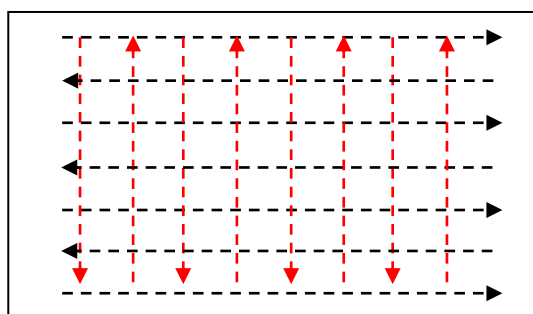
(6) 塗布 2 回目

- ① 塗布 1 回目からの塗布間隔を厳守し、2 回目の塗布を実施して下さい。
※塗布間隔は 1 時間以上を標準として下さい。また、1 回目塗布のタックが無いことを確認してください。
- ② 1 回目の塗布と同様にワックスモップを用いて、均一に塗布して下さい。
溜りが出来ないように薄く均一に塗布してください。
2 回目の標準使用量は約 $0.02 \sim 0.05 \text{ kg/m}^2$ です。

※送風機等を使用して換気対策を実施してください。



2 回目塗布例



-----▶ 1 回目塗布方向

-----▶ 2 回目塗布方向

※塗布方向は一回目と直角状に、一定方向に向かって塗布することで、塗布ムラを低減出来ます。チリ周りは先行し過ぎて塗ると、艶の差が出てしまいますので、極力塗り継ぎ時間に差が出ないように注意して施工計画を立ててください。

(7) 養生撤去

- ① マスキングテープや養生テープの撤去は、塗布直後を避け、歩行開始が可能な程度の強度が得られた後に実施して下さい。

※塗布直後での養生撤去は塗膜にカスが付着してしまう恐れがあります。

9.施工環境に関する注意

- 施工時の環境温度は5℃以下、35℃以上になる場合は施工を行わないで下さい。
 - ◎環境温度が5℃以下で採暖する場合は、ジェットヒーター等を用いて、時間をかけて室内全体が温まる様に行ってください。施工直前の採暖は、結露が生じやすくなります。空間を暖めるように必ず上向きに設置し、温風を直接床面に当てないで下さい。また、下地が5℃以上に温まるようにして下さい。
- 施工時の湿度は80%以上の高湿度下では、施工を行わないで下さい。
 - ◎高湿度下では硬化不良、塗膜層間での付着が不十分となる恐れがあります。自然換気もしくは強制換気により施工時の湿度を低下させて下さい。
- 施工後十分に乾燥を促してください。
 - ◎送風機等を用いて十分に乾燥を促してください。空気の滞留があると乾燥不良や硬化不良となる恐れがあります。
- 施工中・養生中は同一箇所での他の職種の作業は中止して下さい。
 - ◎配線電気工事等で用いるシリコンスプレーのミストの影響でハジキが生じることがあります。

10.施工上の注意事項

- 「リジットコート」施工時には、この標準施工仕様書を遵守して下さい。
 - ※記載のない事項や不明な点は、必ずお問い合わせの上、確認してから施工を行って下さい。
- 施工場所を予め確認して、施工条件（現場環境条件、下地条件など）が整っていることを確認して下さい。
- 下地が十分に乾燥していること、汚れが無いことを確認して下さい。
- リジットコートは必ず2回塗りで施工して下さい。
- リジットコートの施工前には、事前に施工周囲への材料の汚れ防止養生をお願いします。
- 寒冷地や冬季施工の場合、気温が5℃以下の場合や、施工後12時間程度以内に5℃以下に下がると予想される場合には、採暖対策をするか、施工を行わないで下さい。
- 施工後は軟質塩ビ系のシートでの床養生は行わないで下さい。付着して取れなくなる恐れがあります。床養生を実施する際は、軟質塩ビ系素材を避けて選定して下さい。

1 1 . 取り扱い上の注意

注意	吸入したり皮膚に触れたりすると、中毒、かぶれ、肌荒れ等を起こす恐れがありますので、取り扱いには下記の注意事項を守って下さい。
-----------	--

- 材料が皮膚に接触すると体質や体調により、稀に発赤、カブレ、肌荒れ等の皮膚炎症がでる事があります。念のため、材料取り扱い時は保護手袋・保護衣を着用してください。作業前に保護クリームを手に塗ると炎症防止効果があります。
- 皮膚に付着した材料を落とすときは、石鹼や洗剤を使用して、水で十分に洗い流してください。
- 皮膚に痛みや炎症が発生した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 眼に入った場合には、多量の清浄な水で洗い流し、速やかに医師の診察を受けてください。
- 材料が飛散して眼に入らないように、保護眼鏡を着用して下さい。
- 誤って飲み込んだ場合には、速やかに医師の診察を受けてください。
- 直射日光・雨・雪の当たらない屋内に保管し、また、凍結（0℃以下）させないでください。
- 容器は密閉した状態で保管してください。